

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台シルバーセンター
2	指定管理者	仙台市健康福祉事業団・東北共立グループ
3	指定期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 平成30年度 161,012人 (前年度比 103.17%) 平成29年度 156,064人 (前年度比 99.94%) 平成28年度 156,152人 (前年度比 94.47%) 《事業》 相談事業 968人 福祉用具展示 6,127人 市民向け介護講座 13講座 3,529人
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 238,000千円 (238,000千円) ・ その他市が負担した費用 90,209千円 (122,517千円) 《収入》 ・ 使用料収入 20,116千円 (19,512千円) ・ その他収入 278千円 (400千円) <p style="text-align: right;">()は前年度決算額</p>
6	利用者の声	《実施状況》 センター1階情報コーナーに「市長への声」を設置している。また、利用者アンケートコーナーを1階に常設し、適宜回答を掲示している他、講座受講者に対してもアンケートを実施している。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	シルバーセンターの設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解している。 また、豊齢社会の実現に向け、高齢者の健康増進維持や生きがいづくりに関する企画立案、施設の公平・公正な利用、福祉用具の展示などを始め、高齢者の視点に立った施設運営を行っている。	45/45
II 施設の運営管理体制	必要数の職員が配置されており、各職員はミーティングによりグループ間でも、その日の施設利用予定をはじめ、他の職員の業務状況を把握している。 また、個人情報の漏洩や滅失を防止するため、管理責任者を定めるとともに職員への周知等、意識啓発も行うなど、個人情報保護に対する体制を整えている。さらに、市民利用施設予約システムの運用にあたっては、管理責任者を定め、システムを取り扱う職員を特定しそれ以外の職員には取り扱わせないようにするとともに、異動等の際には職員教育を実施し、情報セキュリティへの対策を適切に講じている。 施設使用上の事故発生に備え、連絡体制や職員の役割分担を予め決めており、災害リスクに対してもBCP(事業継続計画)を策定し職員に対する周知を行っている。 なお、今年度は一部の経理書類の作成に不備があったため、業務管理の徹底について指導したところである。	29/30
III 施設・設備の維持管理	利用者の安全・安心・快適な利用を維持するため、建物等の保守点検や施設内外の清掃を適切に行い、事故防止のために、館内巡回も行われている。また平成30年度は、空調設備の更新工事が行われる中、本市との連携を密にしなが、滞りなく工事を完了することができた。 その他、LED化による節電やごみ発生の抑制、水道使用量削減のための節水への取り組みなど、環境に配慮した施設運営が行われている。	24/24
IV サービスの質の向上	利用者の意見や苦情を把握するため「市長への手紙」を窓口に設置しているほか、利用者アンケートを年1回以上行っている。 また、利用者が気持ちよく利用できるよう、丁寧な応対や1階アトリウムにその日の館内催事状況が一目でわかるよう液晶ディスプレイを設置するなど、分かりやすい説明を心がけており、さらに、ホームページやリーフレット、情報誌発行などを通じて利用者への情報提供や施設のPRも積極的に行っている。	28/28
V 施設固有の基準	施設の使用許可や使用料の徴収・還付などを仙台市の条例や規則等に基づき適正に実施している。また、プールや浴室の衛生管理も適切に行い、利用者が安全かつ快適に利用できるような状態の保持に努めている。	27/27

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 75%; text-align: center;">加点評価</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">—</td> </tr> </table>		加点評価	—
加点評価	—		

四 評価総括

《指定管理者（仙台市健康福祉事業団・東北共立グループ）による自己評価》
<p>(施設管理について) 平成4年1月の開館以来27年が経過し、建物や設備が老朽化している状況を踏まえ緊急度合を判断しながら修繕を行い、利用者が安全に安心して利用できるよう施設管理に努めている。経費の節減によって捻出した財源を使い館内照明のLED化を進め、市民サービスの向上と省エネを推進した。施設のフリースペースを活用し高齢者団体の活動に役立ててもらい市民活動を促進した。</p> <p>(総合相談センターについて) 終活の相談が増加するなど、相談者が抱える問題が多様化、複雑化しており、的確な情報の提供や支援先への繋ぎができるよう情報収集に取り組みとともに幅広い研修を実施し職員の相談スキルの向上に努めた。</p> <p>(介護研修・福祉用具展示について) 市民を対象とした介護研修講座の多くが定員を超える応募があるという状況は前年度と同様であるが可能な限り受け入れを行った。専門的な知識や技術を持つ講師達とのネットワークを生かしながら介護サービスの事業者等からの希望に応じた研修を自主事業として随時、企画開催した。福祉用具展示室においては、関係団体へのチラシの配布等による広報に力を入れた結果、小学校の総合学習の中で来室する学校もありました。展示室では、介護を支える家族、施設職員にとって有用となるよう福祉用具を毎年度選定更新し、500点を超える福祉用具を実際に触れることができるよう工夫し展示している。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成30年度の管理運営は、協定書及び仕様書に従い適切・良好に行われた。 シルバーセンターは、イベント開催、プール・会議室等の利用、生涯学習の場、趣味の発表機会の提供など、高齢者の様々な活動拠点として機能している。 開館から27年が経過し、年々建物及び設備の老朽化が進行している中、突発的な修繕業務にも迅速に対応し、且つ利用者の安全確保にも適切に努めながら、事故等なく管理運営が行われた。特に平成30年度は、空調設備改修工事が実施されたが、事前周知に始まり、本市との連携を密にしながら進捗管理を行い、滞りなく工事が完了できた。 各種事業の実施状況においても、総合相談(延べ968人)、福祉用具展示室(延べ6,127人)、市民向け介護講座(13講座延べ3,529人)と、いずれも前年を上回る利用人数を記録しており、総合的に高く評価できる。</p>	A

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局保険高齢部高齢企画課